

環境報告書 2018 年度

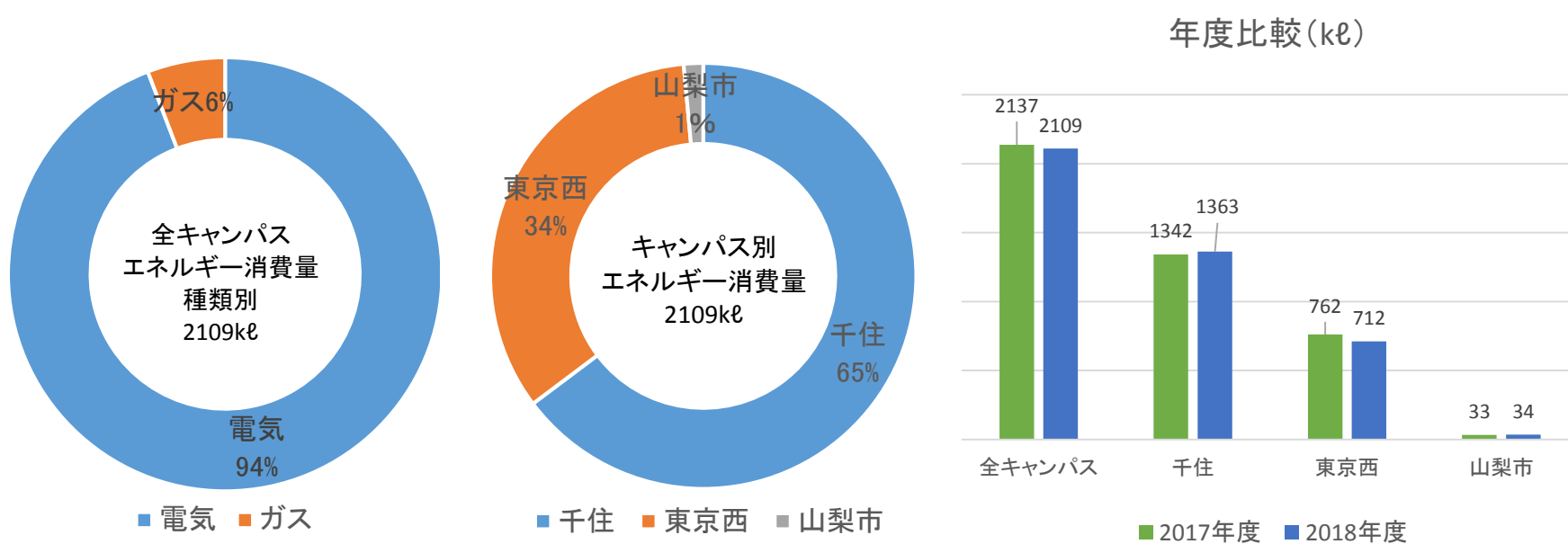
◆環境方針

本学は、「生命・環境」「医療」「子ども」の三つをキーワードとして先端科学技術の教育・研究を推進し、21世紀の世界の持続的発展に貢献することを使命としている。環境問題が本学の教育・研究の課題の重要な一つであることから、環境への負荷の少ない、自然と調和したキャンパスの実現に努力すべきことは本学としての当然の責務であると考えます。

このため、本学は、全学的に環境マネジメントシステム（EMS）を構築し、全学を挙げた継続的努力によりエコ・キャンパスの実現を期するとともに、以下の活動を通じて、地球環境の保全・改善に貢献することを目指す。

1. 教育活動、啓発活動を通じて地球環境の保全・改善に貢献するとともに、本学の教職員、学生、関係のある業者その他キャンパス内の全ての者に「環境を守る」という目的意識を持つよう求める。
2. 教育・研究等の諸活動において、環境に関連する法令、学内規則等を順守する。
3. 省資源・省エネルギー、化学物質の安全管理に取組み環境への負荷を低減するよう努める。
4. 環境目的及び目標を設けてその実現を図り、定期的に見直し環境マネジメントシステムの継続的改善に努める

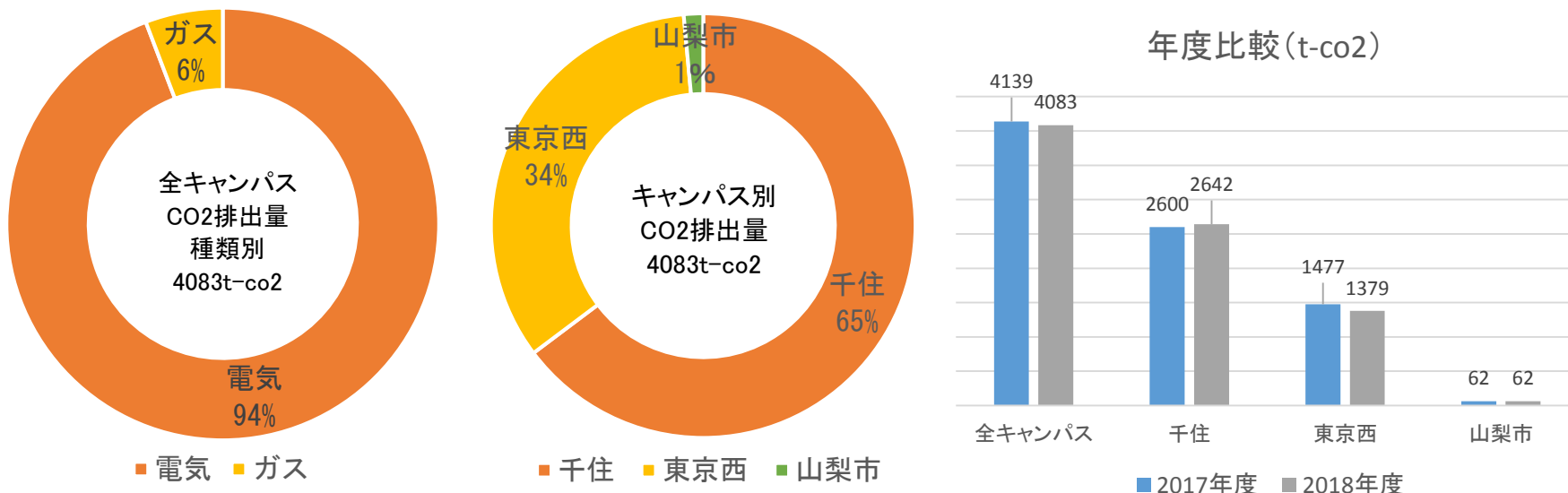
◆2018 年度エネルギー消費量（INPUT）



2018年度のエネルギー消費量は、2109kℓでした。前年度のエネルギー消費量が2137kℓとなるので、前年度と比較して1.3%の削減となりました。削減の要因としては、東京西キャンパスにおいて2017年度より、キャンパス内の建物照明を順次LED化を進めていることが挙げられ、東京西キャンパスだけで前年度と比較して6.8%の削減となりました。千住キャンパスについては、前年度と比較して1.7%増加しており、夏の猛暑の影響や、新たに8号館を竣工したことが要因として挙げられます。

エネルギーの種類別にみると、電気が全体の94%を占めており、残りの6%をガスが占めております。また、キャンパス別に消費量をみると、千住キャンパスが全体の65%、ついで東京西キャンパスが34%、残りの1%が山梨市キャンパスという内訳となっております。

◆2018 年度 CO2 排出量（OUTPUT）

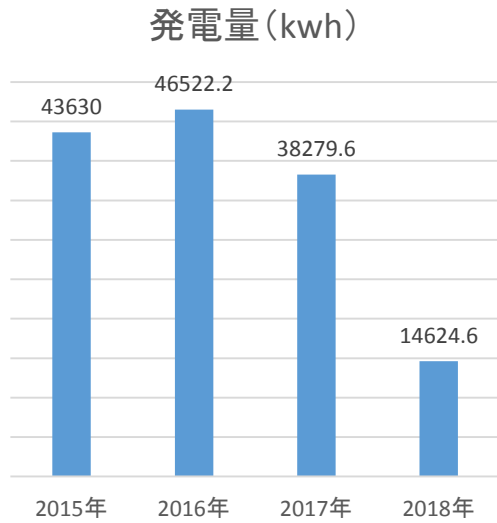


2018年度のCO2排出量は、4083t-co2でした。前年度のCO2排出量が4139t-co2となるので、前年度と比較して1.8%の削減となりました。削減要因はエネルギー消費量と同様となっております。

エネルギーの種類別にみると、電気が全体の94%を占めており、残りの6%をガスが占めております。また、キャンパス別に消費量を

みると、千住キャンパスが全体の65%、ついで東京西キャンパスが34%、残りの1%が山梨市キャンパスという内訳となっています。

◆再生可能エネルギー発電量



千住キャンパス7号館の屋上に、太陽光パネルが設置されています。太陽光パネルのサイズは、24m×42mで7号館屋上面積のおよそ1/3を占めています。2018年度の太陽光発電量は、14624.6kWhとなっており、設置されている7号館の電気使用量のおよそ2%を発電しています。2018年度の発電量が低い要因としては、4ヶ月程故障していたためです。

◆環境教育

1年次については、新入生オリエンテーションにおいて初めての環境教育として、本学のEMS活動の経緯、EMS活動の内容、EMS活動の重要性、学生に望むことなどについて実施し、2年次以降については、各学科のオリエンテーションにおいて、本学の環境方針、目的・目標、EMS活動の取組みなどについて実施をしました。

【環境アクション5カ条】

1. 不要な照明やOA機器の電源を切ろう
2. 過度な冷暖房を控えよう
3. 節水を心がけよう
4. ゴミの分別廃棄を徹底しよう
5. 駐車時のアイドリングストップを心がけよう



◆内部監査結果の報告

本学では、環境に関連する法令順守状況、化学物質・高圧ガスの保管状況、環境教育及び省資源・省エネルギーの推進状況に関する報告書の提出を各部門に義務付けて、第三者の視点から評価を行う内部監査委員会を設けて評価を行っております。

1. 法令順守状況の評価

全学共通及び学科固有の環境に関する法令等の順守状況について監査した結果、全ての部門において法令順守状況は適切と判断されました。

2. 化学物質・高圧ガスの保管状況の評価

各学科の化学物質及び高圧ガスの保管状況について監査した結果、全ての実験室・研究室等において保管状況は適切と判断されました。

省資源・省エネルギーの推進状況

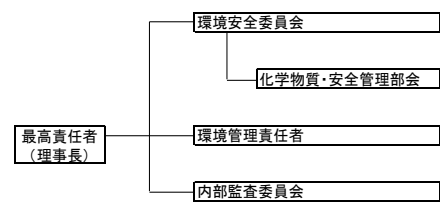
3. 省資源・省エネルギーの状況の評価

(1) エネルギー消費量について

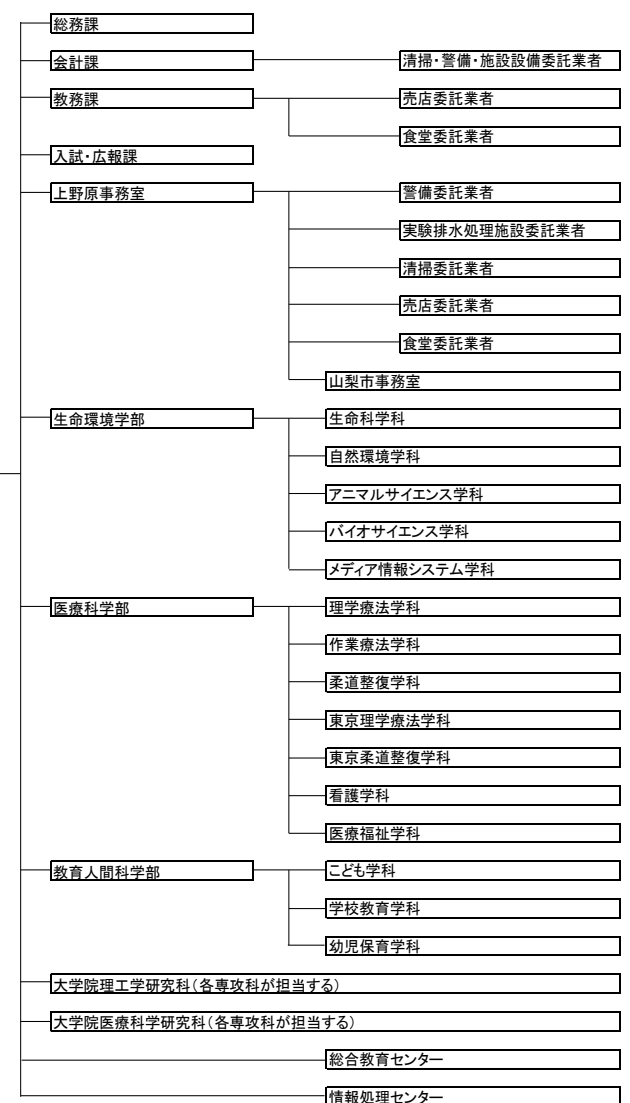
東京西キャンパスは会計課の定めた暫定目標(以下暫定目標)以下の実績であることが確認されましたが、千住キャンパス、山梨市キャンパスは目標を達成できませんでした。

(2) CO2 排出量について

東京西キャンパス、山梨市キャンパスは暫定目標以下の実績であることが確認されましたが、千住キャン



帝京科学大学 環境管理体制



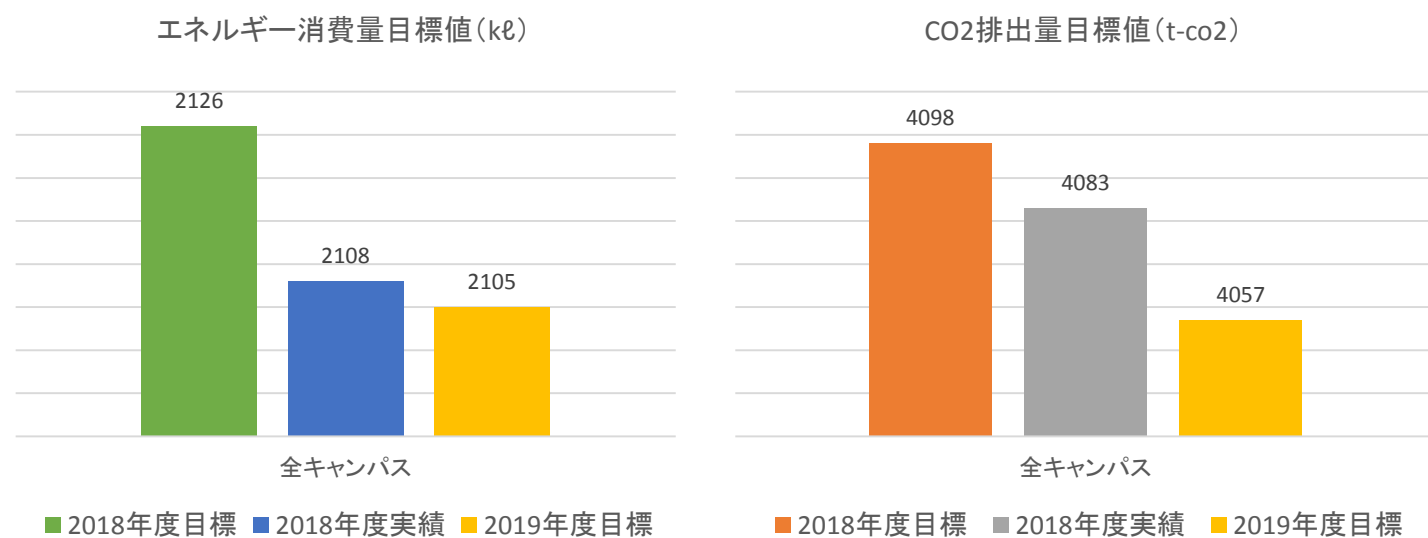
パスは目標を達成できませんでした。

4. 環境教育訓練の実施状況の評価

関係するすべての部署で一般教育が実施されていることが確認されました。

昨年3月から環境安全委員会が開催されていない結果、全学の目的・目標が公開されず、省資源・省エネルギーについては会計課の作成した暫定目標の状態での活動となっていました。さらに2019年3月現在において、2014年以降の環境報告書が公開されていない状況についても、内部監査において指摘が挙がっております。

◆次年度の目標



2019年度の目標として、エネルギーの使用の合理化等に関する法律に基づき、本学におけるエネルギー消費量及びCO2排出量を前年度の目標値から1%削減をした値を目標とします。前年度の目標値から1%削減をした値をエネルギー消費量2105kℓ、CO2排出量を4057t-co2と決めました。目標値達成のために、2019年度から千住キャンパスの建物内の照明を、順次高効率照明(LED照明)へ変更を行っていきます。